令和7年度
公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果

横浜市公立大学法人評価委員会

令和８年８月

目　次

＜ 公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要 ＞ …… 1

＜ 令和７年度の業務実績評価 ＞ …… 2

１　評価概要 …… 3
２　項目別評価
Ⅰ　教育 …… 5
Ⅱ　研究 …… 8
Ⅲ　医療 …… 10
Ⅳ　法人経営 …… 12
Ⅴ　自己点検及び評価 …… 16
Ⅵ　地域貢献（横断的項目）…… 16
Ⅶ　グローバル展開（横断的項目）…… 17

参考資料：法人による自己評価 …… 18

＜公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要＞

公立大学法人横浜市立大学（以下「法人」という。）は、市会の議決を経て、市が定めた中期目標の達成に向け、法人自らが策定した中期計画や年度計画※ に基づいて、自主自律的な大学運営を推進する。また、法人は中期目標期間及び各事業年度における業務の実績について、横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の評価を受ける。

評価委員会は、中期目標期間並びに各事業年度における評価に当たって、中期計画や年度計画の実施状況を調査及び分析し、その結果を考慮して総合的な評価を行う。また、その評価結果を法人に通知するとともに、市長へ報告し、公表する。報告を受けた市長は、評価結果を市会へ報告する。

※ 令和５年６月の地方独立行政法人法の改正により、公立大学法人における法定上の年度計画及び年度評価は廃止されたが、横浜市立大学においては、PDCA サイクルとしての有用性等から、引き続き、年度計画の策定及び年度評価を実施することとしている。

■ 評価の種類

(1) 年度評価：各年度計画の実施状況を確認すること等により、業務の実績について評価を行う。

【評価の視点】

・評価を通じて改革のための取組を積極的に支援すること。

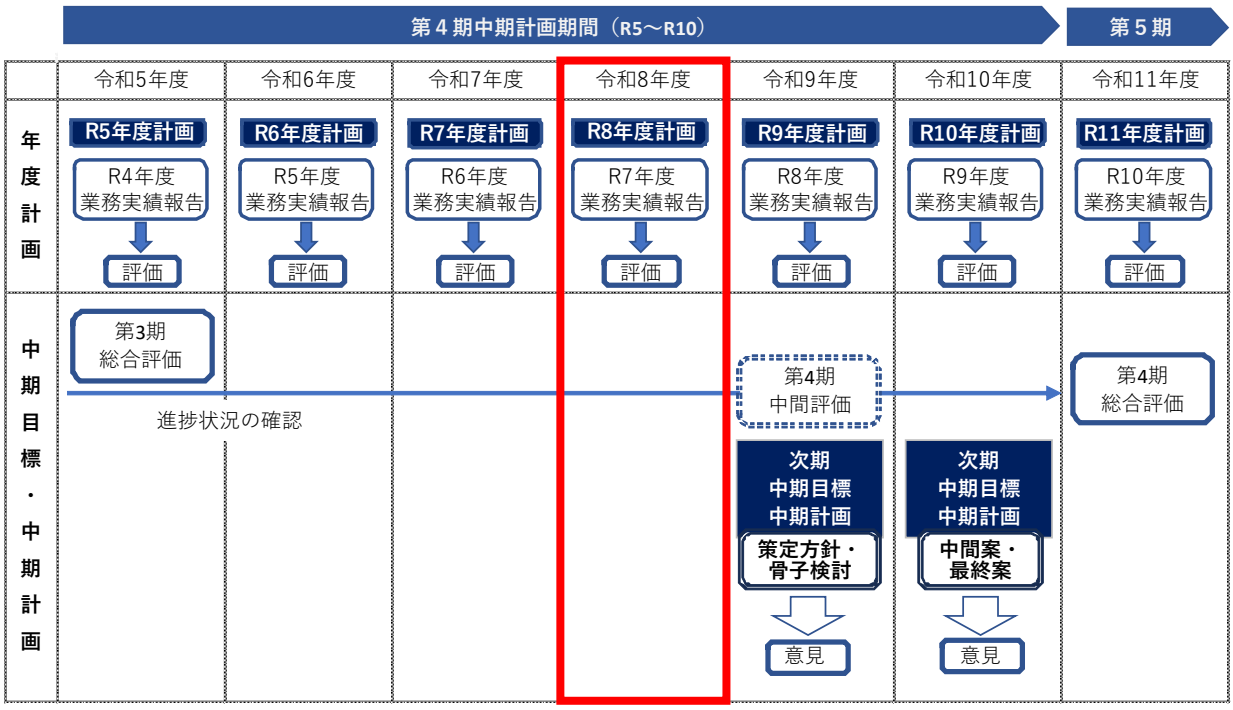
・組織、業務等について、改善の方法等を明らかにすること。

(2) 中間評価：中期目標期間（６年間）の４年目終了時に、中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績についての中間評価（みなし評価）を行う。

【評価の視点】

・次期中期計画の策定に向けて、法人が業務運営の改善に適切に反映するための評価であること。

(3) 総合評価：中間評価の結果や、評価委員会において指摘された留意点等を踏まえ、中期目標期間における総合的な評価を行う。



■ 評価委員会委員

第 11 期委員（任期：令和７年２月 27 日～令和９年２月 26 日）

委員長	板東 久美子	元文部科学審議官
委　員 （50 音順）	今市 涼子	学校法人日本女子大学理事長
	大塚 篤	公認会計士
	小峰 直	横浜商工会議所副会頭
	山本 修一	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長

■ 評価委員会開催実績（令和８年度）

５月８日、７月６日、８月 21 日 （計３回開催）

＜令和７年度の業務実績評価＞

■ 評価の方針

第４期中期目標期間（令和５年度～令和 10 年度）の３年目となる令和７年度の業務実績について、評価委員会は主として次のような方針に基づいて評価を行った。

(1) 令和７年度の業務実績評価に当たっては、第４期中期目標、第４期中期計画の達成に資するよう、計画の進捗状況を書面及びヒアリング等により確認し、総合的な評価を実施するとともに、市民に分かりやすく公表する。

(2) 法人の質的向上に資するよう、意欲的な取組を積極的に支援するほか、専門的観点から課題点を指摘するとともに、過去の指摘事項が大学運営に的確に反映されているかを確認する。

(3) 自主的･自律的な大学運営の実現を目指し、法人全体の組織･業務等の改善･充実を図る観点から、目標設定の妥当性についても検討し、必要に応じて計画の修正を求める。

■ 評価の基準

法人から提出された令和７年度の業務実績報告書等に基づき、評価委員会は書面審査及びヒアリングを実施し、各項目に沿って調査・分析の上、総合的に次の５段階による評価を行った。

Ｓ： 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある
Ａ： 計画を上回って実施している
Ｂ： 計画どおり実施している
Ｃ： 計画を十分に実施していない
Ｄ： 重大な改善事項がある

１　評価概要

令和７年度の総評

第４期中期計画の３年目となる令和７年度は、少子高齢化の進展に加えて、物価高騰や人件費上昇といった収益悪化に繋がる社会情勢が続く中で、教育、研究、医療、法人経営等のそれぞれの分野において、計画に基づく具体的な取組が着実に進展し、法人の経営改善に向けた努力もより顕著に認められた。

教育については、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING 事業）による大学院博士後期課程の学生支援、データサイエンス学部及び理学部の定員増の推進、入試実質倍率の増加基調維持など、社会的要請や時代の変化を見据えた人材育成に取り組んでいる。また、データサイエンス分野を中心とした教育の充実や、時代の要請に応じたリカレント教育講座の実施など、市民や社会のニーズに対応した取組が進められていることは評価できる。

研究については、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）の初年度として、研究戦略を支える組織の設立検討、「卓越教員制度」の設計及び公募など、大学全体の研究力向上に向けた体制整備を着実に推進している点が高く評価される。また、オープンイノベーションラボが開所となり、本施設を拠点としたベンチャー創出や共同研究の推進による研究成果の社会実装に向けた取組も進展している。一方で、論文数など一部の指標については課題も見られることから、研究時間の確保や研究環境のさらなる充実、施策の明確化及び進捗管理の強化に取り組み、研究力向上に向けた取組を一層推進することが期待される。

医療については、附属２病院が横浜市域の地域医療を支える中核的役割を果たしながら、先進的かつ質の高い医療の提供に努めている。経営環境が厳しさを増す中にあっても、診療体制の効率化や経営改善に取り組み、病院収支改善を実現したことは高く評価できる。また、最新設備の導入や救急医療体制の強化など、医療機能の向上にも継続して取り組んでいる。今後はより一層、地域医療への貢献とともに、高度医療や研究など大学病院に求められる役割を果たしていくことが期待される。

法人経営については、人件費や物件費の上昇等により経営環境が厳しさを増す中、組織横断的な取組による経営改善を進め、法人全体として赤字を縮小するなど成果を上げていることは評価できる。一方で、大学部門の収支改善については引き続き重要な課題であり、外部資金の更なる獲得や収入増加策の検討、重点分野への戦略的な資源配分など、メリハリのある経営が求められる。また、経費削減のみでは対応に限界があることから、持続可能な法人運営に向けて、幅広い視点から検討を進める必要がある。また、2028 年に迎える創立 100 周年を好機として、より一層、社会的プレゼンスの向上に繋げていくことが望まれる。

令和７年度の評価一覧

項目 ＼ 評価		S 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある	A 計画を上回って実施している	B 計画どおり実施している	C 計画を十分に実施していない	D 重大な改善事項がある
Ⅰ　教育	1　新たな時代を見据えた教育の提供		○			
	2　5学部6研究科における教育の充実			○		
	3　時代に即した学修環境・学生支援の提供			○		
	4　多様で優秀な人材の獲得と輩出			○		
	5　社会人の学び直し			○		
Ⅱ　研究	1　先進的・学際的研究等の推進				○	
	2　オープンイノベーションの推進		○			
	3　研究基盤の強化及び支援体制の整備			○		
Ⅲ　医療	1　患者本位の医療の提供と患者安全の取組		○			
	2　質の高い医療の提供	○				
	3　政策的医療への貢献、地域医療の推進			○		
	4　明日を担う質の高い医療人材の育成と活用			○		
Ⅳ　法人経営	1　経営改革を強力に推進するガバナンスの強化			○		
	2　不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保			○		
	3　コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立			○		
	4　教職員エンゲージメントの向上				○	
	5　YCUの価値向上			○		
	6　課題解決を目指した地域社会との協働の推進			○		
	7　医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進			○		
	8　環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり			○		
Ⅴ　自己点検及び評価				○		
Ⅵ　地域貢献（横断的項目）			○			
Ⅶ　グローバル展開（横断的項目）				○		

２　項目別評価

Ⅰ　教 育

１．新たな時代を見据えた教育の提供　　【評価】 Ａ

（優れた点・特色ある点）

・教学 IR※1 と FD※2・SD※3 との連携、学生参加型の FD・SD 研修会の実施など、教育の質向上のための取組を積極的に進めている。また、認証評価の受審に向けて学内の意識醸成も進んでいる。
・前期実績と比較して、全ての指標で実績が改善している。
・外部資金の獲得により奨学金を多くの学生に支給、長期留学人数を増加させた点は評価できる。
・教育の質保証にかかる外部評価で上位評価を受けており、グローバル教育の分野でも外部資金による留学生支援を実施している。

※1　IR（Institutional Research）：計画立案、政策形成及び意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能
※2　FD（Faculty Development）：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組
※3　SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組

（改善すべき点）

・海外学生派遣の支援の拡大は大いに評価できるが、短期派遣数は減少しており、更なる派遣拡大に向けた取組を期待する。

２．５学部６研究科における教育の充実　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・データサイエンス教育については、令和７年度からの研究科の定員増、令和９年度からの学部の定員増に向けた教育体制整備を着実に進めるほか、医学研究科・データサイエンス研究科でのデュアルディグリープログラムの推進、全学でのデータサイエンスプログラムの履修の拡大など、総合的に充実が進んでいる。学生の満足度及び学修成果の評価が昨年度より高くなっている。

（更なる充実が期待される点）

・分野・組織を超えた連携も進みつつあり、更なる推進を期待する。

３．時代に即した学修環境・学生支援の提供　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・学生の学修・生活支援については、学修管理システムの活用などにより、きめ細かく進めている。

・学修管理システムによる学習履歴の可視化等が進み、学生満足度も上がっている。

（更なる充実が期待される点）

・奨学金受給者比率が増加し支援対象となる家庭が増えていると推察される中、適切な制度の周知・案内など、学生生活の支援について継続的な事業実施を期待する。

（改善すべき点）

・学生の定期健康診断受診は重要であり、社会人の数値の取り方を変える以上に、学生の受診率向上を目指した働きかけの強化を期待する。

４．多様で優秀な人材の獲得と輩出　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・学生の質と数の確保、就職率とも、高大連携の取組やキャリア支援の充実により、順調に実績をあげている。

（更なる充実が期待される点）

・博士後期課程の学生への支援は重要であり、キャリアコーディネーターによる相談など評価できる。SPRING※との連携充実を期待する。

・入試における実質倍率 2.50 倍という増加基調が継続されているのは、入試広報活動等が機能していると推察できる。今後は、効果を見極めた効率的な施策展開を期待する。

※　SPRING（Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation）：次世代研究者挑戦的研究プログラム

（改善すべき点）

・外国人留学生の就職については、地元経済界をはじめとした企業等との連携を拡大し、さらに就職率の向上を図ることを期待する。

・未達の指標があり、前年度実績と比較し、数値の低下が見られることから改善が必要。

５．社会人の学び直し　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・リカレント教育、エクステンション講座ともに新たな企画にも取組み、充実に努めている。

（更なる充実が期待される点）

・社会連携センターの立ち上げにより、様々な社会人のニーズ分析と企業等の多様な主体との連携を進め、一層充実したリカレント教育の展開を期待する。

・設定されている主な「定量的指標」が１つしかないため、満足度や受講者数など複数の指標を設けることが期待される。

（改善すべき点）

・データサイエンス研究科の履修証明プログラムの受講者については、社会人の獲得が困難であった理由の分析が必要。本学卒業生にアプローチしてはどうか。

Ⅱ　研 究

１．先進的・学際的研究等の推進　　【評価】　C

（優れた点・特色ある点）

・ J-PEAKS における様々な取組を進めており、中核となる研究者を重点的に支援する「卓越教員制度」の導入や、URA 等の研究支援体制、産官学連携体制、臨床研究体制の充実に努めている。

（更なる充実が期待される点）

・主要な学術雑誌掲載論文数、Top10%論文数などが目標値に到達していないため、研究時間の十分な確保や優秀な研究人材への重点的な研究支援など、更なる環境整備が必要。

（改善すべき点）

・高い目標を掲げていることもあり、論文目標・臨床研究目標達成にはまだ努力が必要だが、指標達成に向けて前進しつつある。研究時間の確保等の研究環境整備や臨床研究推進の施策検討に着手しており、様々な取組を覚悟を持って進めることを期待する。
・前年度実績と比較すると改善しているが、未達成の指標項目が複数ある。
・研究者の意欲、研究時間確保などの研究環境の充実に向けてコストをかけるべきものを明確化・予算化し、見える形にした上で進捗管理すべきと考える。

２．オープンイノベーションの推進　　【評価】　A

（優れた点・特色ある点）

・J-PEAKS の取組、オープンイノベーションラボの設置、スタートアップ創出・支援など、オープンイノベーション環境、産官学連携体制が前進している。
・オープンイノベーションラボの成果が、ベンチャー創出数、民間との共同・受託研究数に表れている。

（更なる充実が期待される点）

・研究受入額ベースでは漸減傾向、値上げや単価の多寡で案件を選別するなど、額ベースでの引上げを期待する。

３．研究基盤の強化及び支援体制の整備　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・科研費採択件数は着実に増加している。

（更なる充実が期待される点）

・「科研費ステップアップ支援」としてより大型研究の増加に取り組んでおり、挑戦の支援や意識改革を着実に進めることを期待する。

・基礎研究費の配分要件の見直しや、URA による支援などが効果を出しているので、今後もコアファシリティ体制の整備を進めてほしい。また、若手・女性研究者等への対策についても、引き続き、検討してほしい。

Ⅲ　医 療

１．患者本位の医療の提供と患者安全の取組　　【評価】　Ａ

（優れた点・特色ある点）

・患者本位の医療提供に向けて、最新手術支援ロボットを使った低侵襲手術の拡大や会計・診療の待ち時間短縮等による利便性向上などが進められている。また、患者情報の一元管理によるチーム医療の強化や病床運用の効率化が進められている。

・附属病院は機能評価係数Ⅱ※において全国１位という外部評価を獲得しており、収益も改善している。センター病院は患者満足度を改善させる中、重点目標全項目を前年比改善させ、収益改善は顕著である。

・両病院長の卓越したリーダーシップにより諸課題に対応し、経営改善につながっている。

※ 機能評価係数Ⅱ：厚生労働省が公表する「医療の質・効率性・地域への貢献度等を総合評価する指標」

（更なる充実が期待される点）

・DX の推進とともに、サイバー攻撃への対策など、更に体制を整えることを期待する。

２．質の高い医療の提供　　【評価】　Ｓ

（優れた点・特色ある点）

・最新式の機器の導入を進めたこと、機能評価係数Ⅱの大学病院本院群で附属病院が全国 1 位と評価されたことなど、医療の質の向上に向けた取組が進展している。両病院とも高い救急応需率を達成している。また、外国人医療受入医療機関認証をセンター病院が取得し、附属病院も令和８年度の受審の体制を整えるなど、外国人患者増加に対応する環境整備が進められている。

・電子カルテや病床稼働状況など各種院内データをリアルタイムで分析・可視化するシステムを活用し、病院長直下のプロジェクトとして医師・看護師・事務職等で構成されたコマンドチームを運用することで、組織横断的な連携を進め、病床運用の効率化等が図られた。

（更なる充実が期待される点）

・外国人患者の増加が見込まれる中、外国人患者の受入環境整備を更に進めてほしい。

３．政策的医療への貢献、地域医療の推進　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・高い救急応需率を実現しており、地域医療の最後の砦として役割を果たしている。生殖医療においても高い実績をあげている。

・医療を取り巻く競争環境が厳しくなる中で、新入院患者数が増加しているのは評価できる。

（更なる充実が期待される点）

・地域医療の推進に関して、外国人患者への情報発信も含めて、Web 予約システム等、広報機能の充実が期待される。

４．明日を担う質の高い医療人材の育成と活用　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・看護職員の能力向上について、キャリア・ラダーを活用し、両病院と大学、実践と教育の横断的な連携強化を進めており、他の医療技術職についても取組を広げている。

（更なる充実が期待される点）

・初期研修医のマッチング率が目標未達となったのには様々な要因があったようだが、採用試験日程の拡大や定員削減による達成率向上だけでなく、病院の強みや研修効果を高め、アピールすることについて、更なる分析や取組の実施も期待する。

・看護師の特定行為研修については、臨床現場での必要性を考えれば、目標値を上回る配置を期待したい。

（改善すべき点）

・未達指標の初期研修医のマッチング率など、低下理由が判明しているものは、改善・対応を期待する。

Ⅳ　法人経営

１．経営改革を強力に推進するガバナンスの強化　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・監査室や内部通報体制が整備され、ガバナンスが向上しつつあることがうかがえる。

（更なる充実が期待される点）

・内部監査の実績や内部統制の整備状況に関する指標設定も必要と考える。

・内部監査や内部通報制度の拡充によって法人運営がどのように改善したのか、具体的な成果に期待したい。

２．不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・大学・病院とも、組織・職種横断的に構造的・戦略的な経営改革に取り組み、経営損失の大幅な減少につなげた。大型の外部資金獲得にも努めている。

・赤字の解消には至らなかったが、寄附金の獲得も含めた、経営改善プロジェクトの策定など、構造改革の効果が出ている。

（更なる充実が期待される点）

・大学部門は事業見直しを進めるも 1.4 億円の赤字であるため、引き続き、外部資金の獲得を中心とした収入増を期待する。個別項目では人件費において給与改定は実施すべきであるが、必要な人員数については精査が必要と考える。

・両病院の赤字を大幅に圧縮したことは高く評価するが、それによって、研究など大学病院に本来期待される機能が劣化することを強く懸念する。

（改善すべき点）

・赤字解消に向けて、改善施策の着実な実施を期待する。一方で、人件費削減等により大学の機能低下を来たさないよう、運営交付金の在り方など、横浜市における検討も期待したい。

３．コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・コンプライアンス、リスクマネジメントに関する意識啓発や対応の向上の取組を着実に行っている。

・リスクマップ更新、情報セキュリティ研修など、着実に行っている。

（更なる充実が期待される点）

・最近問題になっている経済安全保障や情報セキュリティ関連については、リスク分析を進め、取組の一層の充実を期待する。

・コンプライアンス関連研修については、実施回数の指標達成だけに着目せず、今後は、出席率の向上や研修内容の充実を図るなど、受講実態や研修効果に着目していくことが必要と考える。

４．教職員エンゲージメントの向上　　【評価】 Ｃ

（優れた点・特色ある点）

・「教職員意識調査」における「ダイバーシティ推進関連」の項目における評価数値は前回(令和４年度実施)よりも上昇している。

（更なる充実が期待される点）

・診療現場における障害者雇用は、必ずしも容易ではないことに留意すべきである。

（改善すべき点）

・障害者の法定雇用率の達成については、雇用計画の着実な実施が必要であり、DX の活用など取組の進化を期待する。令和 8 年度からの新たなダイバーシティ推進計画においては、離職率の目標を中期計画より低い数値で設定しているのは問題であり（看護職（1 年以内）13%以下（中期計画では 10%以下)、看護職以外（3 年以内）16%以下（中期計画では 10%以下))、改善が必要である。

・ダイバーシティ推進に関する教職員の意識は高くなっているが、実際には、障害者雇用率、配偶者の出産に伴う休暇取得率が目標を下回っているので、有効な施策が必要である。

・教職員エンゲージメントの向上は大学価値向上の上で重要であり、「教職員意識調査」とその結果は重要視されるべきものと考えるが、回答率が低く改善が求められる。

５．ＹＣＵの価値向上　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・創立 100 周年に向けた事業を活用し、地道に大学の認知向上の取組を進めている。大学ホームページでも研究面のトピックの発信を積極的に行っている。

（更なる充実が期待される点）

・創立 100 周年に向けて更なる価値向上を期待したい。

（改善すべき点）

・YCU100 募金については、掲げられている事業が多様なため、一般の寄附がどのように目的とする事業に活用されるかの説明など、やや発信に工夫の余地があると思われる。

・広報は教職員一人ひとりの情報発信も必要だが、SNS を効果的に利用する戦略が重要であるため、専門家の力も必要かと考える。

６．課題解決を目指した地域社会との協働の推進　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・地域貢献センターにおける相談対応が着実に実施されるとともに、社会連携センター発足や市民参加型研究など、地域社会との協働を深化させる新たな取組が進められている。

・教員の地域貢献活動支援など、地域のニーズに応える施策が着実に進んでいる。

（更なる充実が期待される点）

・社会連携センターの下で、企業のみならず、非営利セクター、市民など多様な主体との連携協働が進むことや、更なる外部資金の獲得を期待する。

・市民参加型の研究は多くの市民を抱える横浜市ならではの成果を期待したい。

７．医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・再整備事業に備え、電子カルテシステムと医薬品・試薬及び診療材料の２病院共通化や、２病院合同の会議の開催による情報共有及び共通課題の解決に取り組むなど両病院の連携が進んでいる。

（更なる充実が期待される点）

・再整備の基本計画策定が、大学病院の状況を十分に踏まえながら、高度化や社会的要請に応えるものになることを期待する。

・２病院それぞれの特徴を活かしながら更なる経営努力を進め、２病院の間の連携を深め、新病院の検討を進めてほしい。

・両病院の医療機器や施設・設備について統合を見据えた計画的更新など病院間の協働強化を期待する。

８．環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり　　【評価】 Ｂ

（優れた点・特色ある点）

・キャンパスの長寿命化計画や交流促進の仕掛け作りを進めている。

（更なる充実が期待される点）

・国際混在型留学生宿舎など、多文化共生を進めるための、さらなる施策とその実施が期待される。

Ⅴ 自己点検及び評価 【評価】B

（優れた点・特色ある点）

・法人評価委員会による評価を受けるとともに、自己点検・評価を計画通り、着実に実施した。

（更なる充実が期待される点）

・中期計画の内容と現状について、全教職員への周知の仕方、更にステークホルダーへの情報公開の仕方を検討してほしい。

Ⅵ 地域貢献（横断的項目） 【評価】A

（優れた点・特色ある点）

・高い救急患者応需率など地域医療への貢献が進展している。オープンイノベーション推進や社会人教育など、地域への知的貢献も進みつつある。また、学生ボランティア派遣も盛んであり、学生も地域貢献の重要な担い手になっている。

・リカレント教育プログラムの拡充、共創イノベーションセンターを中核とする産官学連携推進が成果を上げていること、また、質の高い医療の提供、地域医療の推進のための施策を進めていることは、地域貢献の観点から、高く評価できる。

（更なる充実が期待される点）

・創立 100 周年事業を通じて社会連携をさらに可視化・再認識すること、来年の横浜グリーンエクスポにも学生・教職員が様々な形で寄与することが期待される。

・J-PEAKS を通じ、横浜市の人口や規模を生かした研究活動も期待したい。

Ⅶ グローバル展開（横断的項目）　【評価】B

（優れた点・特色ある点）

・コロナ渦で停滞していた国際交流についても、回復してきている。

・附属２病院において、JMIP※取得をはじめとした外国人患者受入れに関する取組を進めている。

※ JMIP（Japan Medical Service Accreditation for International Patients）：
外国人患者受入れ医療機関認証制度。多言語による診療案内や、異文化・宗教に配慮した対応など、外国の方々が安心・安全に日本の医療サービスを受けられる体制を整えている医療機関を認証する制度。

（更なる充実が期待される点）

・今後の受験者層の人数減少を見据えた優秀な留学生獲得努力が必要となると考える。

（改善すべき点）

・研究力の向上のために、教員の海外派遣や海外大学等との交流をさらに拡充することを期待する。寄付金や様々な制度を活用し、日本人学生の海外派遣を一層推進することを期待する。また、外国人留学生の受け入れ拡大とともに、我が国における活躍のための就職支援の一層の充実を期待する。

・YCU 学生の海外派遣の体制が年々整備されてきたことは評価できるが、グローバル展開における「外国人留学生受入れ」について、大学としての方針と具体的施策がわかりにくい。

自己評価総括表

S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある　A：計画を上回って実施している
B：【標準】計画どおり実施している　　C：計画を十分に実施していない
D：重大な改善事項がある

大項目		中項目	R7 自己評価	R6 自己評価	小項目 【計画No.】
Ⅰ	教育				
	1	新たな時代を見据えた教育の提供	A	B	【1】【2】
	評価理由：学生満足度等の全ての目標値を達成するとともに、学生の海外派遣において円安環境により学生の費用負担が増加傾向にある中、外部資金の獲得により長期交換留学へ渡航する約９割の学生に奨学金を支給することができたことによる				
	2	５学部６研究科における教育の充実	B	A	【3】～【6】
	3	時代に即した学修環境・学生支援の提供	B	B	【7】【8】
	4	多様で優秀な人材の獲得と輩出	B	B	【9】【10】
	5	社会人の学び直し	B	B	【11】
Ⅱ	研究				
	1	先進的・学際的研究等の推進	C	B	【12】【13】
	評価理由：学術誌等掲載論文数、Top10％論文数、臨床研究法における臨床研究の実施件数が未達となったことによる				
	2	オープンイノベーションの推進	A	S	【14】
	評価理由：企業との共同・受託研究数等の全ての目標値を達成するとともに、特に大学発ベンチャーの支援が進捗し、ベンチャー創出累計数が中期計画の目標値を超えていることによる				
	3	研究基盤の強化及び支援体制の整備	B	B	【15】【16】
Ⅲ	医療				
	1	患者本位の医療の提供と患者安全の取組	S	B	【17】～【20】
	評価理由：患者満足度、クリニカルパス適用率、DPC 入院期間Ⅱ以内の退院割合等の全ての目標値を達成するとともに、附属病院ではコマンドチーム、コマンドセンターにより病床運用を効率化したことや、低侵襲の手術支援ロボットを導入したこと、センター病院では昨年度の満足度調査の結果を踏まえて改善に取り組み、患者満足の目標値（78.5％）を上回る結果（79.9％）となったことによる				

	中項目		R7 自己評価	R6 自己評価	小項目 【計画№】
	2	質の高い医療の提供	S	A	【21】【22】
	評価理由：手術件数や救急応需率等の全ての目標値を達成するとともに、附属病院においては厚生労働省公表の機能評価係数Ⅱにおいて大学病院本院群で全国第１位の評価を受けたこと、センター病院においては外国人患者受入医療機関認証制度（JMIP）の認証取得を実現したことや、横浜市二次救急輪番病院に参加し、二次救急の受入れをさらに進めたことによる				
	3	政策的医療への貢献、地域医療の推進	B	A	【23】【24】
	4	明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	B	B	【25】
Ⅳ	法人経営				
	1	経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	B	B	【26】
	2	不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	B	C	【27】～【29】
	3	コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	B	B	【30】【31】
	4	教職員エンゲージメントの向上	C	B	【32】【33】
	評価理由：障害者雇用率（法定雇用率）、配偶者の出産休暇取得等の指標が未達となったことによる				
	5	YCU の価値向上	B	B	【34】～【37】
	6	課題解決を目指した地域社会との協働の推進	B	B	【38】
	7	医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進	B	B	【39】【40】
	8	環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり	B	B	【41】【42】
Ⅴ	自己点検及び評価				
	-	-	B	B	【43】